

8月7日1校目	
松蔭高校	フットボールの時間
<p>大正時代という、まだ男尊女卑の根強い時代とフットボールという男性が中心となるスポーツを絡めた、男性と女性の身分の違いを表現した劇だと感じました。また、舞台となった大正時代への理解が非常に深く、一つの動作、一つの話し方を取ってもとてもクオリティが高かったです。</p> <p>女学生の日常といった自然な演技がある中、「大根足」という台詞と同時に実際に大根を持って横切ったり、うだうだと説教をする宇田先生の身体に布が巻き付かれていたりと演劇的で突飛な演出もあります。ですがその演出だけが目立つことなく、劇を盛り上げるためのアクセントになっているところに役者や裏方のレベルの高さが見えました。</p> <p>途中から現れた格子状の大道具は、人が出入りできる建物やボールが保管されていた棚として使われていましたが、女学生の閉塞感を表す檻のようにも見えました。衣装の着物も大正らしさがよく表れていて、尚且つ革靴を履くことによって舞台を踏み鳴らす音が高らかになるのがとても良かったです。</p> <p>また、小道具を殆ど使わずパントマイムでの表現が多い中で、唯一残ったボールだけが実物として現れることでそれだけが手元にある、といった印象を強く受けました。</p> <p>しかし、役者が全体的にかなり早口で声のトーンも高く、聞き取りにくいところもあるのが残念でした。会館が広く声が響く関係上、音が高いと聞き取りづらくなってしまうので、もう少しトーンを低くして早口でもハキハキと台詞を言うことができればよりよくなるかと思います。</p> <p>更に、終盤の女生徒二人が泣き続ける場面では泣き方が単調でありながら尺も長く、そこまでのテンポが良かった分気持ち冷めてしまうので工夫が必要だと感じました。</p> <p>ですが役者の動きが揃っており、台本への理解も深く、見せる場面転換の動きもスムーズで全てにおいてクオリティの高い劇でした。</p> <p>松蔭高校さん、お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: right;">津島北高校 結城 遥香</p>	